

夏を整理するとき

茗溪塾塾長 宇野 雅春

合宿の閉会式で、その期間を振り返る映像を見ながら大笑いをしていたのですが、笑いながらも涙が出るくらいに感動していることに気がきました。

生徒のやる気を引き出すためのいくつもの試みが、毎年、工夫を重ねつつ先生たちで作っているのですが、その本気度がひしひしと伝わってきたからです。ほとんど眠る時間もないようなスケジュールの中で、準備していく凄さもあるけれど、冷めた目で見ると多分滑稽に思えることが、ここまで、しっかりと準備されていると、多分それは、ある意味凄いことではないかと思ったのです。合宿の中で育まれた文化のようなものがそこにはあって、その文化は特に定められた形があるものではないだけにより凄さを感じたのだと思います。

生徒の盛り上がりや、真剣さもひしひしと感じて、こんな状況で受験まで行けたら、きっと大成功になるのだろうと甘い予想を立てました。もちろんそんな「甘いこと」はありえません。夏が過ぎ日常が戻ってくるとまた受験生特有の揺らぎも始まり、学校行事に追われたりするうちに、夏に感じていた熱い気持ちも冷めていきます。受験直前になると再び真剣な顔が見られてくるのですが、それでは遅いので、何とか「やる気」を維持させたいと思うのです。生徒が自分で、必要を感じて学習に取り組み始めると明らかに成績に大きな飛躍が生まれます。そのことは実は誰もが知っている事なのですが、つい忘れがちです。自分に矛先を向けるのではなく周りの環境や先生をはじめとする他者に責任を転嫁していく傾向があります。「わからない」のはその生徒の中に前提となる知識がないことが多く、その知識がないことをどうやって解決するかを考えていくべきなのに、教えている先生のせいにしてしまいます。自分で解決しようとするれば、確実に理解が深まるはずですが、テキストを読むだけでも理解できることをいつまでも、人のせいにして解決しないまま、放置し続けるということです。これは自分で取り組むという姿勢が欠けた時に起こります。嫌な教科、苦手な教科だから勉強もしないし、先生の話など聞く気もないし、まして自分で調べるなんてとんでもないという事です。その状況では、わからないのは当たり前のことなのです。ほんのちょっとでいいので、わかろうとする気持ちでテキストに向かってみてほしいと思います。夏はあれもこれもと大量に課題をこなしてきましたが、この9月、10月は、「夏」を整理することで力を伸ばせるはずですが、ある程度こなせている生徒なら①「間違いなおし」 ②「見直しと知識の整理」を中心に組み込んでいけばいいのです。ほとんど理解できなかった生徒は、テキストの各単元の基礎事項を先生と相談してTCプリントでの基礎獲得を目指しましょう。夏の目標は受験に必要な基礎力の獲得でした。単語や漢字、理科社会の基礎知識などはいつでも時間を見つけて取り組めるものです。夏の勉強は整理されることで大きな実力アップを作ることを忘れずに、そのことを実行してほしいと思います。

夏を整理しつつ、模試や定期試験（中高生）に全力投球ということになります。